



労働保険ノ創設力, 工場法ノ勵行力(2)

瀧谷, 善一

(Citation)

經濟學商業學國民經濟雜誌, 25(1):89-106

(Issue Date)

1918-07

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/00052907>



勞働保險ノ創設カ工場法ノ勵行カ (其二)

神戸高等商業學校教授

商學士 瀧 谷 善 一

四

余ハ已ニ勞働保險ノ成功ノ一大要素ハ疾病傷害豫防設備ノ完全ニ在ルコトヲ述ベタリ。余ハ又勞働保險ノ弊害ガ疾病傷害豫防設備ノ不完全ナル場合ニ著シカルベキコトヲ指摘シタリ。即チ勞働保險ハ豫防設備ノ改善ニ依リテ十分ナル成功ヲ期シ得ベク、其不備ニ因リテ弊害ヲ大ニスルモノナリ。此事タル多クノ學者、實際家ノ意見ノ一致スル所ナリ。殊ニ勞働保險ヲ一般勞働者ニ強制スル場合ニ於テ然リトス。獨逸ニ於テ勞働保險ヲ創設シタルトキニハ、勞働者ノ救済ガ第一ノ目的ナリシガ、其制度ノ實施ニ伴ヒ疾病傷害ノ防止ガ第一位ニ置カルルコト、ナレリ。近世ノ多クノ立法ハ獨逸ノ經驗ニ鑑ミ、始ヨリ事後ノ救済ト同時ニ事前ノ豫防ニ非常ナル努力ヲ爲スニ至レリ。英國ノ National Insurance Act, 1911ニテ

ハ從來ノ用語タル Sickness Insurance ノ文字ノ代リニ Health Insurance ノ文字ヲ用キタリ。是レ本法ニ於テハ國民ノ健康ノ維持増進ヲ重要視スルニ因ルモノナリ。又、米國ニ於テモ最近ノ疾病保險制度創設運動ニ關シテ、ソザト Health Insurance ノ語ヲ用フルハ同様ノ理由ニ出ヅルモノナリ。是レ蓋シ勞働者保護法トシテ其健康維持ガ第一次のモノニシテ、保險救済ガ第二次のモノナルベキガ故ナルノミナラズ、後者ノ成功ノ爲メニハ前者ノ完備ノ必要ナルコトガ明カニ認メラレタルガ故ナリ。

サレバ、我國ニ於テ、勞働保險ヲ創設スルニ當リテハ少クトモ同時ニ疾病傷害豫防設備ノ改良ヲ爲スコト保險制度ノ良好ナル成績ヲ收ムル上ニ於テ必要ナルコトナリ。然シナガラ、勞働保險ノ實施ニツイテハ國庫ノ負擔ノ外、工場主モ多額ノ經費ヲ負擔セザルベカラズ。又、我國ノ如ク豫防設備ノ不完全ナル國ニアリテハ設備ノ改良ニツキテモ、工場主ハ著シキ費用ヲ負擔シ、生産上ノ苦痛ヲ受ケザルベカラザルベシ。サレバ、勞働保險ノ實施ト工場設備ノ改良トヲ同時ニ行フコトハ工業ニ對シ、少ナカラザル負擔ヲ及ボスベキナリ。

尤モ勞働保險ノ工業ニ對スル負擔ノ程度ハ保險ノ種類、被保險者又ハ其遺族ニ

與フル保險利益ノ範圍、傭主、勞働者及ビ國家ノ保險料分擔割合等ニ依リテ異ナル
ノミナラズ、又、工業ノ種類、競争ノ性質、需要ノ狀態等ニ依リテモ同ジカラザルベシ。
然シナガラ大體ヨリ之レヲ觀察スレバ、此種ノ負擔ハ久シキ間ニハ、工業ニヨリテ
ハ、或ハ生産品ノ價格ノ引上ニヨリ消費者ニ之レヲ轉嫁シ、或ハ生産工程ノ改良、其
他生産費ノ節約ニヨリテ之レヲ補填シ、或ハ我國ノ如ク勞働者ノ團體ノ力薄キ處
ニテハ賃銀又ハ勞働條件ノ手加減ニヨリテ勞働者ニ之レヲ轉嫁スルコトヲ得ベ
キヲ以テ、長キ期間ニ亘リテ之レヲ觀レバ、勞働保險ハ必ズシモ、凡テノ工業ニ大ナ
ル負擔ヲ課スルモノナリトイフコトヲ得ズ。^(三) 又、現今、多クノ文明國ニ於テハ例令、
保險ノ種類、組織、保險料分擔、保險利益等ニツキテ差異ハアレド、大抵勞働保險制度
ヲ有スルヲ以テ、内外市場ニ於テ、此等ノ國ノ生産品トノ競争上、我が國ノ製品ノミ
ガ、特ニ勞働保險ノ爲メニ不利ナル地位ニ陷ルコトハ長キ期間ヨリ觀ルトキハナ
カルベキ筈ナリ。併シナガラ、之レヲ短期間ニツキテ觀ルトキハ勞働保險ノ創設
ニヨリテ工業ニ對シ、新ナル負擔ヲ加フルコトハ特殊優越ナル技術的基礎ヲ有セ
ザル多數ノ我が國工業——殊ニ從來、任意的ニモ保險制度ニ依リテ、此種ノ負擔ヲ
爲シ居ラザリシ多數ノ我が國工業ニ對シ大混亂ヲ來シ、少クトモ一時ハ對外競争

上多少ノ不利益ヲ與フルコトハ到底免レザル所ナルベシ。尤モ工業ニ對スル負擔ガ轉嫁ニヨリ調整セラル迄ニ生ズル此工業ノ混亂ハ勞働保險ノ實施ヲ延期スルモ、一度ハ必ズ起ル問題ナリ。又勞働保險ノ必要ヲ認ムル以上ハコレガ爲メニ工業ニ對シ多少ノ負擔ヲ課スルモ、其實施ヲ躊躇スベキニ非ズト雖モ、工場設備ノ未ダ甚ダ不完全ナル時ニ勞働保險ヲ實施シ、豫防設備ノ改良ト、勞働保險ノ實施トニ伴フ經費ヲ一度ニ負擔セシムルコトハ此混亂ヲ一層大ナラシムルモノニシテ、結局ノ轉嫁ヲ見ル迄ニ、我ガ國工業ノ發達ニ大ナル惡影響ヲ及ボスコトナキヤ疑ナキ能ハズ。故ニ工業ノ負擔ヨリ言フトキハ先ヅ相當ノ程度マデ疾病傷害豫防設備ノ改善ヲ計リ、然ル後、保險制度ヲ實施スルコトヲ適當トス。左スレバ工業ニ對シ、急激ナル變動ヲ與フルコトナク、而カモ、豫防設備ノ改善ニ因リテ、保險事故、保險詐欺ノ發生ヲ少クスルヲ以テ、保險ノ經費ヲ少クシ、工業ノ負擔ヲ輕クシ、保險制度ノ完全圓滿ナル實效ヲ舉グルヲ得ベシ。殊ニ此準備期間ニ於テ工業主ヲシテ漸次任意的ニ勞働者ニ對スル保險制度ヲ完備スルニ努メシムレバ、一般的強制勞働保險ノ實施ニ際シテモ、比較的大ナル變動ヲ工業ニ與ヘズシテ、保險ノ効果ヲ有効ニ舉グルコトヲ得ベキナリ。

註 (I) Wehr, p. 183, p. 214. Schwedman and Emery, p. 276. (獨逸帝國保險局長 Kauffmann ノ手紙ノ一節)

(II) Woodbury p. 38—106. (III) Woodbury p. 157.

五

是レヲ單純ナル理論上ヨリ言フモ保險制度ハ元來、一ノ善後策ニ過ギズシテ、傷害、疾病ノ豫防ガ第一ナラザルベカラズ。凡ソ勞働者ノ困窮ノ原因ハ主トシテ其傷害、疾病、癱疾、老衰、又ハ失職ニ在ルモノナレバ、此等ノ事故ヲ全然防止スルコトヲ得バ、勞働保險ノ必要ナキ譯ナリ。然シナガラ此等ヲ全然防止スルコト不可能ナルガ故ニ保險ノ必要モ生ズル次第ナレド、夫レニシテモ、此等ノ事故ヲ出來得ル丈ケ防止スルコトハ直接ニ勞働者ノ肉體上、精神上、殊ニ生活上ノ苦痛ヲ除去シ、生活ヲ幸福ナラシムル所以ナリ。更ニ之レヲ國民經濟上ヨリ觀ルトキハ此等ノ事故ノ豫防ニヨリテ一國ノ勞働力ヲ維持シ、一國ノ生産力ノ損傷ヲ防止スルノミナラズ、又、豫防設備ノ存在ニヨリテ勞働者ハ安心シテ大膽ニ仕事ニ従事スベク、從ツテ勞働效程ノ増進ヲ見ルベシ。サレバ豫防設備ヲ改善スルコトハ勞働者ニトリテモ、國民經濟ニトリテモ、將、又長キ期間ニハ一般工業者ニトリテモ非常ニ利益ナルコトナリ。是レ何レノ國ニ於テモ勞働者保護法トシテ先ヅ工場法ノ制定アル所

以ナリ、獨逸ノ如キビスマークハ政略上、工場法ノ完備ヨリハ寧ロ勞働保險ノ創設ヲ急ギタリト稱セラレ、現ニ同國ハ他國ニ率先シテ遙ニ速ニ勞働保險制度ヲ創始シタレド、而カモ勞働保險ノ制定セラレシ時ニハ工場ハ假令其内容ガ幼稚ナルモノナリシニモセヨ、兎ニ角、遙ニ之レニ先チテ施行セラレ居タルナリ、其他ノ國ニ於テモ工場法ハ多クハ遙ニ勞働保險ニ先チテ制定セラレタルモノナリ

我國ニ於テハ多年ノ懸案タリシ工場法ハ漸クニシテ明治四十四年三月公布セラレ、僅カニ大正五年八月ヨリ其實施ヲ見タルニ過ギズ、而カモ其規定ハ未ダ十分ニ勞働者ノ健康ヲ保護スルニ足ラズ、且ツ多クノ例外的規定ヲ有シ、適用ノ範圍未ダ一般的ナラザル憾アリ、就中勞働保險ト甚ダ密接ノ關係アル工場設備及ビ工場衛生ニ關スル規定及ビ其取締ノ如キハ極メテ不満足ナル狀態ニ在リ、例ヘバ工場取締ノ如キハ從來ト同ジク、各府縣毎ニ警察令ヲ以テ、取締規定ヲ設ケシメ、且ツ警察官ヲシテ之レガ施行ノ任ニ當ラシム、而シテ府縣ハ工場取締規則、汽罐汽機取締規則等ヲ設ケテ、工場ノ建設、汽罐汽機ノ据付等ニ關シ取締ヲ爲スモ、此等ノ規程ハ多クハ一般的ノ粗雜ナルモノニシテ、疾病、傷害上危險多キ工業ニ對スル取締法規トシテハ甚ダ不完全ナルノミナラズ、警察官ヲシテ其施行ノ任ニ當ラ

シムルガ如キハ疾病災害ノ防止ヲ有效ナラシムル所以ニ非ザルベシ。

之レヲ外國ニ於ケル實例ニ觀ルニ、工場ニ於ケル危險豫防並ニ衛生設備ニ關スル規定並ニ取締ハ頗ル細密且ツ嚴重ナリ。例ヘバ獨逸ニ於テハ一八九一年ノ工業條例 (Gewerbeordnung) ニ於テ此等設備ノ大體ヲ規定スル外、聯邦參議院 (Bundesrat) ハ工業條例ニヨリ與ヘラレタル權限ニ基キ健康ニ危險多キ數多ノ種類ノ工場ニツキ別々ニ詳細ナル取締規定ヲ制定シ、且ツ專門ノ技師ヲシテ、之レガ施行ノ任ニ當ラシム。^(三)英國ノ如キモ、一九〇一年ノ工場法 (Factory and Workshop Act) ニ於テ危險豫防並ニ衛生設備ニ關スル詳細ナル規定ヲ設クル外、內務大臣ハ工場法ニ依リ與ヘラレタル權限ニ基キ、特ニ危險多キ各種ノ工場ニツキ細密ナル取締規定ヲ制定シ、專門ノ技師ヲシテ、之レガ施行監督ノ任ニ當ラシム。^(四)其他ノ國ニ於テモ、此種ノ規則ハ多クハ我國ニ於ケルヨリモ遙ニ技術的ニシテ細密ナリ。^(五)

前述ノ如ク我が國ノ工場法ノ規定ガ甚ダ不完全ナリ。然ルニ、一方我が國ノ工場及ビ鑛山ノ實際狀況如何トイフニ素ヨリ少數ノ例外ハアレド、大體ニ於テ、職工ノ待遇甚ダ宜シカラズ。工場及ビ寄宿舍等ニ於ケル衛生設備ノ如キモ概シテ言ハバ極テ不完全ニシテ、其結果肺結核ノ蔓延ヲ來シ且ツ其他ノ病者モ少ナカラザ

ルコトハ人ノ知ル所ナリ。又、大多數ノ工場ハ建築脆弱ニシテ、採光、換氣、其ニ惡シク、危險防止、塵埃及ビ有毒瓦斯排除設備極メテ不完全ナルガ爲メニ、多クノ負傷者病者ヲ出シ、然ラザル迄モ知ズノ間ニ勞働者ノ體格ヲ弱メツ、アルコトハ人ノ知ル所ナリ。然ルニ他方ニ於テ近時機械工業發達シ、機械殊ニ高速度ニテ運轉スル機械ノ使用多キニ伴ヒ、工場ニ於ケル傷害ハ次第ニ増加セントシ、又、近來、化學工業ノ發達ニ伴ヒ有害物質ノ取扱、不衛生ナル設備ノ爲メニ所謂職業疾病ナルモノ大ニ増加セントス。其他生活ノ困難ニ基ク過度ナル勞働、不健康ナル生活狀態、女子殊ニ既婚女子ノ使傭等ハ益勞働者ノ體力ヲ衰弱セシメントス。而カモ此等ノ傷害、疾病ノ多クハ或程度マデ豫防シ得ラル、コト外國ニ於ケル實例ニ見ルモ明ナリ。^(六)況ンヤ此等ノ點ニツキ從來殆ンド豫防策ノ講ゼラレザリシ我國ニ於テハ豫防設備ノ効果特ニ著シキモノアルコトハ豫想スルニ難カラズ。工場法ノ改善勵行、一般衛生狀態ノ改良、生活ノ向上ガ勞働者保護法ノ第一着手トシテ現下ノ我國ニ於テ特ニ重要視スベキコト復、細說ヲ要セザルベシ。

二 (一) 小野參事官調査、獨逸ニ於ケル社會政策調查報告書、四二頁―四四頁 (二) 同上、二頁―八頁 (三) 岡博士、五

五二―五五八頁

(四) 同上、五五九―五七二頁。塚本明壽君著、工場法精義、二〇〇―二七四頁。農商務省商工局編、

英國危險業其他ノ工場取締規則、一一―二七頁 (五) 塚本君、一九〇―一九九頁。一九五―二〇〇頁。State of New

York, Department of Labor, Special Bulletin No. 76, European Regulations for Prevention of Occupational

Diseases, 1916. (六) National Safety Council ノ報告ニハ米國ニ於ケル例ヲ掲グルコト多シ。編述ノ例ハ Schwedman and Emery ニ掲グルコト詳細ナリ。

六

然ルニ若シ、豫防設備ノ改善ヲ計ラズシテ、直ニ勞働保險ヲ創設センカ、勞働者ノ保護ハ根本的タルコト能ハズ。勞働者ノ疾病、傷害ノ原因ヲ除去セズシテ、其救済ヲ計ルハ恰モ人ヲ溝壑ニ投ジテ然ル後之レヲ救助セントスルト一般理論上、本末ヲ顛倒スルノ甚ダシキモノタルノミナラズ、保險制度トシテモ亦十分ノ成功ヲ得ル所以ニ非ズ。蓋シ、一般勞働者ノ衛生狀態ノ改善ヲ爲サズ、傷害事故ノ防止ヲ計ラズシテ勞働保險ヲ創始スルニ於テハ、當初ヨリ傷害疾病ノ發生非常ニ多クシテ保險金ノ支拂不當ニ大ナルベシ。其結果ハ保險利益ノ給與ヲ少クスルカ、又ハ工業ノ負擔ヲ多クセザルベカラズ。結局ハ傷害、疾病、癈疾ノ防止方法ヲ講ゼザルベカラザルニ至ルベシ。是レ獨逸ノ勞働保險制度、我國ニ於ケル鐵道院現業員共濟制度ノ沿革ニ徴シテモ明ナル所ナリ。(一) 又此等ノ豫防設備不完全ナルトキハ詐病、故意又ハ不注意ノ負傷、疾病、負傷ノ誇張、治療期間ノ遲延、年金病ノ發生ヲ惹起シ易

キコトハ獨逸英國等ノ經驗上想像スルニ難カラズ。其結果ハ勞働保險ノ負擔ヲ増加ス。而カモ此負擔ハ全ク詐僞者、怠慢者ノ爲メニ正直ナル勞働者及ビ傭主并ニ國家ヲ煩スニ過ギズ。コレガ爲メニ得ル處毫モナク却テ勞働者ノ獨立心ヲ萎靡セシムルノミ。サレバ此等ノ弊害ヲ避ケンガ爲メニモ、先ヅ豫防設備ヲ改善スルコト必要ナリトス。

且ツ夫レ、勞働保險ノ制定ニツキテハ疾病統計、傷害統計等、計算ノ基礎トナルベキモノヲ要スベシ。獨逸ニ於テモ、英國ニ於テモ、疾病保險ノ一般的ニ強制セラレタル時ニハ已ニ久シク、共濟組合、職工組合等ニテ疾病保險ヲ營ミ相當ノ數字上ノ經驗ヲ有シ國立勞働保險ノ參考トナリタルモノナリ。然ルニ我國ニ於テハ數年前ヨリ鐵道院專賣局、其他數種ノ官設工場及ビ或種ノ民間工場ニ於テ共濟組合存在スルノミニテ、一般工業ニ對スル勞働保險ノ材料ハ未ダ十分ナリト言フコトヲ得ズ。勿論何レノ國ニ於テモ、勞働保險制度創設ノ際ハ材料ノ完全ナルコトハ望マレズ、又政府ノ財政上ノ負擔、勞働者並ニ工場主ノ負擔ヲ意ニ介セズトナラバ、不完全ナル材料ニテ勞働保險ノ各種中一部分ヅ、ヲ創始シ漸次他ノ種類ニ及ビ、且ツ、次第ニ料率其他ニ變更ヲ加フルモ一策ナルニ相違ナキモ、ソレニシテモ、我が國

現今ノ如キ不完全ナル統計ノ上ニカ、ル大事業ヲ行ハントスルハ責任ヲ重ンズル方法ナリト謂フコトヲ得ズ、猶、傷害保險、疾病保險、老廢保險ニ於ケル負擔ノ公平ヲ期スル爲メニハ被保險者ノ職業、年齡、場合ニヨリテハ——特ニ疾病保險ニ在リテハ男女ノ別ニ應ジテ保險料ニ差等ヲ設クルヲ至當トスルニ、此種ノ統計ハ我が國ノ今日ノ狀態ニ於テハ之レヲ得ルコト全然不能ナレバ、旁、以テ正確ナル保險料ノ算定不可能ナルナリ。然ルニ我が國工場法規ニハ疾病、傷害報告ノ義務ヲ工場主ニ負擔セシメアリ。又、職工登録ノ制度モ建テラレアリ。吾人ハ此點ヨリ言フモ、先ヅ工場法ヲ勵行シ、以テ、疾病統計、傷害統計ノ編成ヲ計ルベキモノナリト思惟ス。

圖 (一) 永井享君、國有鐵道現業員ノ保護救濟施設ニ就テ(國家學會雜誌第三十二卷第五號) (II) Webb, p. 163, p. 167.

七

尤モ、傷害豫防設備ガ如何ニ完全トナルモ、傷害事故ヲ全然防止スルコトハ困難ナリ。又衛生設備ガ如何ニ十分ナルモ、疾病癘疾ヲ絶滅スルコトハ不可能ナリ。加之、勞働保險ヲ實施スルニ於テハ其制度如何ニヨリテハ自然ニ疾病傷害防止設

備ノ改良ヲ促シ得ルコト獨逸及ビ米國ノ例ニ見ルモ明ナリ。例ヘバ、獨逸ニ於ケル傷害保險ニ於テ、同業組合ガ傷害防止規程ヲ設ケ、工場検査ヲ嚴ニシテ、傷害防止ニ非常ナル努力ヲ爲スニ至レルガ如キ、又、疾病保險組合、廢疾保險局ガ疾病ノ治療ニ著大ノ貢獻ヲ爲セルガ如キハ、工場主ガ勞働保險ノ下ニ於ケル負擔ヲ輕減セントスルノ希望ニ基クコト大ナルハ凡テ人ノ認ムル所ナリ。^(一)又近年米國ニ於テ「安全第一」ナル運動起リ、工場ニ於ケル傷害防止設備ヲ著シク改善スルニ至リシモ一ハ慈愛心ノ發露ニシテ、又一ニハ職工ノ傷害ニヨル營業上ノ障害ヲ防止スルニ在ルモ、又大ニ數年前ヨリ同國ノ多クノ州ニ於テ實施セラレタル勞働者賠償法 (Workmen's Compensation Law) ノ結果タルコトハ多クノ人ノ認ムル所ナリ。蓋シ此法律ノ下ニ於テハ、僱主ハ職工ノ職業上ノ傷害ニツキ賠償ヲ爲スノ責任ヲ有スルモノナルガ、僱主ハ此責任ヲ保險會社ニ保險スルコト一般ナリ。然ルニ多クノ保險會社ハ協同シテ、保險料ヲ協定シ、工場設備ノ標準ヲ規定シ、時々工場検査人ヲ派シテ工場ノ検査ヲ爲シ、豫防設備ノ改良ヲ要求スルノミナラズ、工場ノ設備ガ一定ノ標準ヨリモ粗惡ナルトキハ、保險料ニ割増ヲ施シ、豫防設備ノ特ニ良好ナル場合ニハ、保險料ヲ割引スルヲ以テ、工場主ハ自然保險料ヲ安カラシメンガ爲メニ設備

ノ改良ヲ加フルニ至レルナリ。(三)

此ノ如ク、勞働保險ニ依リテ工場主ニ勞働者ノ疾病、傷害、廢疾ニ對シテ金錢上ノ責任ヲ負ハスコトハ設備ノ改良ヲ促スニ有力ナル手段タルヲ以テ、工場設備ガ或程度マデ改良セラルレバ、夫レ以上ハ勞働保險ニ依リテ工場主ヲ壓迫シテ更ニ細カキ點ニツキ工場設備ノ改良ヲ計ラシムルコト一策タルニ相違ナシ、然シナガラ、工場法ノ實施甚ダ不満足ナル我國ノ今日、直接ニ工場法ノ勵行ヲ計ラズ、間接ニ勞働保險ノ實施ニ依リテ設備ノ改良ヲ促サントスルコト果シテ其當ヲ得タルモノナリヤ。

抑勞働保險ニ依ル金錢上ノ壓迫ガ工場設備改良ニ及ボス効力ニハ制限アリ。現ニ英國ニ於ケル多クノ共濟組合ノ如キハ今日マデ已ニ久シク疾病保險ヲ行ヒ來リ、疾病ノ減少ガ相互ノ負擔ヲ輕クスル所以ナルコト知レ互レルニ拘ハラズ、衛生設備ノ改良ハ從來殆ンド顧ミラレザリシナリ。(三) 又、英國ニ於ケル勞働者賠償法ノ傷害防止設備ノ改良ニ及ボセル影響モ亦極メテ少シ。獨逸ニ於テスラモ、同業組合ガ今日ノ如ク傷害豫防設備ノ改善ヲ遂グルニ至ルマデニハ非常ニ長キ年月ヲ要シタリトイフ。蓋シ、同業者ガ規約ヲ設ケテ互ニ豫防設備ノ改良ヲ計ラント

スルモ、ソレガ爲メニハ出費ヲ要スベク、カ、ル出費ヲ爲スコトハ差當リ工場主ノ負擔ヲ増加シ、同業者ニ對スル競争力ヲ殺グヲ以テ、工場主ハ互ニ其改良ヲ爲シ澁ル傾アリ。從ツテ工場設備ノ改良ヲ保險團體ニ委スルトキハ其改良ガ遅々タルノミナラズ徹底的ナラザル恐アリ。是レ獨逸ノ如ク同業者ノ傷害防止運動ノ盛ナル國ニ於テスラ、國家ガ別ニ法令ヲ定メ、検査官ヲ置キテ、傷害豫防、衛生設備ノ改良ヲ期スル所以ナリ。況ンヤ我國ノ如ク工場法ノ勵行未タ行ハレザル處ニ於テハ例令、保險制度實施セラル、モ工場設備ノ改善ヲ全然保險團體ニ委スルコトヲ得ズ。國家ハ銳意工場法ノ勵行ヲ爲サルベカラズ。カ、ル場合ニハ工場主ハ保險ノ負擔ト設備ノ改良トヲ一時ニ併セ爲サザルベカラザルニ至ルベシ。カクテハ工業ニ急激ナル變動ヲ與ヘザルベカラザルコト既ニ述ベタル所ナリ。其結果ハ工業ノ發達ヲ防止スルカ又ハ我が國ノ如ク勞働團體ノ勢力ナキ所ニテハ勞働條件ノ改良ヲ阻害スルノ恐アリ。從ツテ勞働者ハ假令勞働保險ニ依リ多少ノ保險利益ヲ受ケ得ルコト、ナルモ、全體トシテ其生活ヲ向上セシメ得ルヤ疑ナキ能ハザルナリ。尤モ勞働保險ニシテ緊切一日モ忽ニスベカラザルモノナラバ工業ノ負擔ノ如キ、之レヲ忍バザルベカラザルベシ。然レドモ、今日我が國勞働者ノ

大多數ハ將來ニ對スル生活ノ保障ヲ希望スルヨリハ現在ノ勞働條件ノ改良ヲ切望スルノ狀態ニ在ルナリ。素ヨリ二者同時ニ之レヲ達シ得ラルレバ此上ナキコトナガラ、兩者ヲ同時ニ達シ得ズトセバ、工場法ノ勵行ヲ先ニシ、勞働保險ノ創設ヲ後ニスル外ナカルベシ。蓋シ工場法ノ改善勵行ハ疾病、傷害、癱疾ノ原因ヲ除去シ且ツ勞働保險ノ成功ノ根抵ヲ與フルモノナレバナリ。又我が國ノ工場法ハ假令不十分ナリトハイヘ、兎ニ角職業上ノ傷害、疾病、死亡ニ對シ扶助ヲ爲スベキコトヲ規定シ、多少共事後ノ救済ノ途ヲ講ジアレバナリ。更ニ況ンヤ勞働保險急施論者ノ主張スル同盟罷工ノ豫防策トシテハ工場法ノ改善勵行ガ勞働保險ヨリモ一層有效ナルニ於テヤ。勿論余ハ勞働者ノ要求ナクンバ勞働保險問題ヲ等閑ニ附スルモ可ナリト爲ス者ニ非ズ。彼等ノ要求ナクトモ、其必要ゲンアラバ、進ンデ勞働保險制度ヲ樹テ勞働者ニ生活ノ保障ヲ與ヘ、階級爭鬭ヲ未發ニ妨グコト爲政者ノ正ニ探ルベキ策ナルコトヲ信ズ。而カモ工場法ノ勵行ヲ先ニシ、勞働保險ノ創設ヲ後ニスベシト主張スルハ物ニハ自ラ緩急ノ順序アリ。其順序ヲ誤ラバ犠牲徒ラニ多クシテ得ル處ノ利益割合ニ小ナルベキヲ思ヘバナリ。蓋シ勞働保險ノ制定ナクシテ工場法ノ勵行アラバ、勞働者ノ困窮ノ根本ヲ除去シ積極的ニ勞働者

ノ幸福ヲ増進シ、工業ノ發達ニ貢獻スル所大ナルベキニ、工場法ノ勵行ナクシテ勞働保險ヲ制定セバ、勞働者ノ困窮ヲ根本的ニ救済スルコト能ハス。保險ノ爲メノ負擔ガ不當ニ多クナリ、勞働保險ハ一國工業ノ負擔ニシテ、詐僞怠慢ノ俑ヲ作ル機關トナル恐アレバナリ。是レ余ハ我國今日ノ策トシテハ後者ヲ捨テ、前者ヲ採ルベシト謂フ所以ナリ。

歐洲戰爭勃發以來我國ノ工業ガ著シキ發達ヲ爲シ、各種ノ工場ハ非常ニ多忙ヲ極メ居レリ。從ツテ仕事ノ速度ガ早クナリ、傷害ヲ惹起シ易キ危險ノ下ニアルニ搗テ加ヘテ一般勞働者ハ其收入ノ多キヲ欲シテ過度ノ勞働ニ服シツ、アリ。斯ル狀態ノ將來勞働者ノ心身ニ及ボス影響誠ニ恐ルベキモノアリ。女子使用ノ増加ノ如キ特ニ然リトス。故ニ傷害防止設備ヲ講ジ、衛生狀態ノ改良ヲ計ルコトハ我國刻下ノ急務ナリ。幸ニ他方ニハ多クノ工業家ハ戰時利益ノ爲ニ一般ニ多少ノ餘裕ヲ生ジツ、アルヲ以テ政府ハ宜シク此際工場法ノ勵行ヲ嚴ニスベキナリ。是レ一國勞働力ノ維持策トシテモ、勞働保險制定ノ準備トシテモ極メテ必要ナルコトナリ。

以上述べタル所ハ國家ガ勞働保險ヲ一般勞働者ニ強制スル場合ヲ假定シテ述

ベタル議論ナリ。故ニ個々ノ工場ガ任意ニ保險制度ヲ設ケ職工ノ疾病、傷害及ビ癘疾ニ際シ、工場法規ニ定メタル以上ノ保險利益ヲ給與スルコト、ナスハ素ヨリ妨ナキノミナラズ、寧ロ大ニ歡迎スベキコトナリ。蓋シ我國ノ工場設備ガ不完全ナル丈ケ、ソレ丈ケ疾病、傷害多ク、從ツテ勞働保險ノ必要アル次第ナリ。吾人ノ今直ニ一足飛ビニ勞働保險制度ニ移ルニ賛成セザルハ一ハ一國工業ニ急激ナル大變動ヲ起サンコトヲ恐レテナレバ、自ラ進ンデ勞働保險制度ヲ立テントスルコトニハ何等反對スルノ理由ナク、勞働者ノ生活ヲ保障スル點ニ於テモ、一般的勞働保險制度ノ材料ヲ得ル點ニ於テモ、將又勞働者ニ保險ノ訓練ヲ與フル點ニ於テモ、極メテ望マシキコトナルハ素ヨリ言フヲ俟タザルナリ。

要之、余ハ素ヨリ一般的勞働保險ノ創設ニ反對スル者ニ非ズ。否、寧ロ一日モ速ニ此制度ノ實施セラレテ、十分ニ其效果ヲ收メンコトヲ希フ者ナリ。故ニ余ハ本論ニ於テ勞働保險ノ必要ニツキテハ論述スル所ナカリシナリ。既ニ一日モ速ニ此制度ノ實施セラレンコトヲ希フ。又已ニ其效果ノ十分ナランコトヲ希フ。工場法ノ勵行ヲ前ニシ勞働保險ノ創設ヲ後ニスベシト主張スルハ之レガ爲メナリ故ニ工場法ノ改善、勵行ヲ爲サズ、長ク豫防設備ノ不備、統計材料ノ缺乏ナル口實ノ

下ニ勞働保險ノ創設ヲ遲ラシムルガ如キハ余ノ本旨ニ非ザルナリ。斷ジテ余ノ本旨ニ非ザル也。(完) (大正七年四月十日稿 同年六月五日再稿)

(1) Schwellman and Emery ニハ此ノトチ認ムル多クノ人ノ意見ヲ載セアリ (11) A. W. Whitney, An Argument

against Monopolistic State Workmen's Compensation Insurance, 1914. (11) Webb p. 167. (12) 例ハ友愛會

第六週年大會ノ議案ヲ見ルモ勞働狀態改良ニ關スル議案ハ六件アル内五件ハ現在ノ勞働條件改良ノ希望ニシテ、一件ハ養老保險法若クハ養老給法實施ヲ其筋ニ請願スルノ件タリシナリ。(勞働及産業第七卷第五號一二一三頁)。又同會長鈴木法學士ノ談トシテ五月某日ノ大阪毎日新聞、神戸附録ニ記載セル所ニヨルモ、事後ノ救済ノ必要ヨリモ、現在ノ勞働條件ノ改良ノ必要ナルヲ切言セルヲ見ル。

附言

政府ハ去ル五月一日ノ閣議ニ於テ工場ノ災害豫防調査並ニ工場及鑛業ノ衛生調査ノ事務ニ從事セシムル爲メニ臨時職員ヲ設置スルノ件ヲ決定シ、之レニ關スル勅令ハ五月十五日ノ官報ヲ以テ公布セラレ、前記ノ目的ノ爲メニ農商務省ニ臨時職員ヲ置クコト、ナレルハ喜ブベキコトナリ(六月五日附記)